

ぜひ受講ください



新たにスタートする管理職養成学校は社会福祉事業をめぐる厳しい経営環境の下で管理運営を担う人材育成を企図して設けられた実践的な学校です。今日の情勢はこれまで以上に社会福祉事業とは何か、私たちがどのような立ち位置にいるかについての深い自覚に基づく管理運営を求めており、そのためには学びが極めて重要になっています。

そうした期待に応じてこの学校が一番力を入れているのは、「プレゼンテーション」、「グループワーク」、「講義」の三位一体のプログラムを通しての管理職としての学ぶ力、考える力の習得です。第2は、ものごとを長いスパンで捉えたり、今いる場所を越えて捉えたり、また領域をまたがって捉えたりする力の習得です。そして第3はこうした学びが継承されることの重視です。そのために「学校」であることの可能性を追求しています。入学式、修学旅行(フィールドワーク)、卒論発表会、卒業式もあります。また卒業生は職場や領域を超えて人的ネットワークをつくるだけでなく、学校の事務局に入るなどして後輩の学習支援者ともなります。

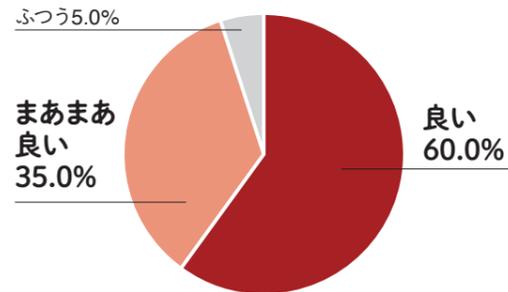
学びは決して楽ではありませんが、「楽しく学ぶ」これがこの学校のモットーです。ぜひ一緒に学びましょう。お待ちしております。

管理職養成学校
校長 浜岡 政好

第1～7期管理職養成学校追跡調査アンケートより
～送り出し法人に聞きました～

Q. 管理職養成学校がその期待に対して応えられていましたか？

A. 「良い」「まあまあ良い」の
プラス評価が96%



Q. 今後も、貴法人の職員に管理職養成学校を受講させたいですか？

A. 100%「はい」の回答



回答をいただいた法人の合計学校受講人数は63名。
そのうちの54名(85.7%)が現在管理職に就いている。

理事長と事務長の強い勧めと自己変革する為を受講を決意しました。

半年間の中で心が何度も折れかけましたが、今後、管理職としてやっていく基盤ができたと思います。

そして、県外の仲間との繋がりができたのは、私の一生の宝だと思います。今でもSNS等で連絡を取っています。

2018年度 受講生 福岡県 社会福祉法人 嶺野児童福祉会 Hさん

受講生の声



管理職養成学校では、社会福祉法人が地域で果たすべき役割や改善に向けた根拠を考え、管理職として自分の思いを言葉にして人に伝えることを学びました。

この学校で次世代を担う友と出会い、支え合えたことは私にとってかけがえのない「財産」となっています。

2019年度 受講生 京都府 社会福祉法人 よさのうみ福祉会 Sさん



jimukyoku1@f-zenkoku.net



一般社団法人 社会福祉経営全国会議

連絡先/〒543-0045 大阪府大阪市天王寺区寺田町2-5-6-902 電話06-6772-1360 Fax06-6772-1376
ホームページ/https://www.f-zenkoku.net/

一般社団法人 社会福祉経営全国会議 管理職養成学校

社会福祉法人制度改革がすすみ、公益性と非営利性を基本とする法人のあり方が問われるなか、コロナ禍は社会福祉事業の公的基盤のよろさをうきぼりにしました。あらためて、この国に暮らす誰もが健康で文化的な生活を営む権利を保障されることの大切さが明らかになりました。

そんな今だからこそ、利用者・職員・経営を守ることを軸に、人権保障としての社会福祉事業を発展させるための管理運営が求められています。

社会福祉経営全国会議は、それを担う次代の管理職をともに育てることを目的に、受講者・法人・事務局が目標を共有し成長するという、新たな形の実践的な学校「管理職養成学校」を開講いたします。



次代の管理職をともに育てる学校——
「学びの航海」にあなたも
出てみませんか。



Start

権利としての社会福祉・社会保障の追求と事業の推進を目指す、社会福祉経営の担い手を育成します。

Point
1

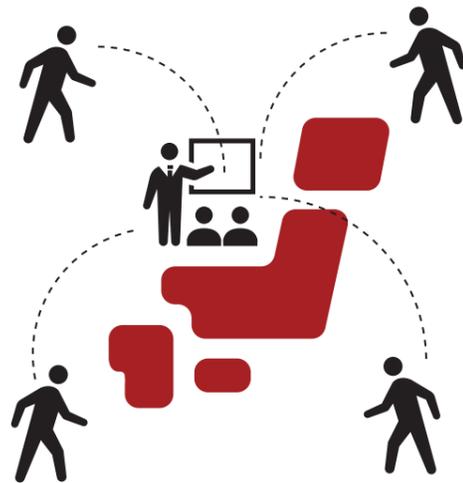
管理職養成学校の卒業生が 全国で活躍しています

社会福祉施設経営者同友会が2013年から始めた管理職養成学校。これまでに修了された方は100名を超え、それぞれの障害者施設、保育園、高齢者施設など多くの社会福祉事業所で管理職を担い、活躍しています。

2013～2022年の管理職養成学校受講者

法人数 50法人 受講者数 144名

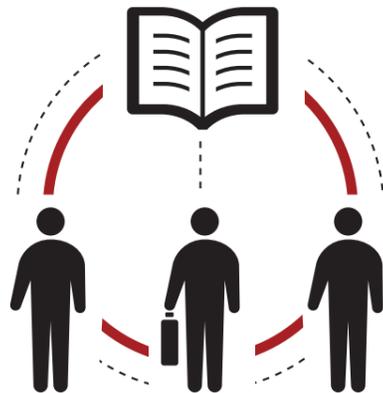
次世代育成がどの法人にも共通する課題となり、小規模法人が独自では取り組めないということも背景に、共同の幹部育成事業として開校しました。社会福祉経営全国会議結成により、この学校事業が引き継がれることになりました。



Point
2

管理職養成学校の役割は ここにある

見極める力、見通す力、戦略を組み立てる力、実行する力を重視し、管理職として求められる知識・技術・資質を育てるものとします。



数字を読み、経営分析をしたうえで、法人と事業の今後を語る人材の育成



社会福祉法等情勢の本質を正確につかんだうえで、法人と事業の将来ビジョンをもてる人材の育成



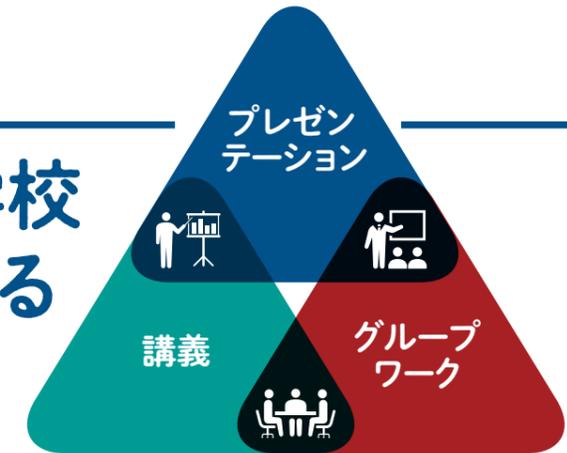
公的責任の後退が広がっている状況の中、創業者世代から、次の世代へと「理念のバトン」を手渡す



管理職養成学校は、受講生の変容をうながすだけでなく、職場と社会の変革も見すえた大きな志を持った学校です。

Point
3

管理職養成学校の講座における 3本柱



管理職養成学校の講座は、基本的に①「プレゼンテーション」、②「講義」、③「グループワーク」から構成されています。

毎回のプレゼンテーションでは、限られた時間内に、原稿を見ず、自らの言葉で「伝え」「理解と共感」をうながすトレーニングを行います。



地域、事業種別、職種などを考慮してゼミ(クラス)が編成されます。

6か月の学校生活を送る基礎集団として、毎回のグループワーク、最後のゼミ発表までをともに過ごします。

講座を港、講座と講座の間を航海ととらえ、航海日誌をつけていきます。
ゼミ仲間と学校事務局員とも共有し、荒波の航海を乗り切る励みとします。



Point
4

送り出し法人の役割

1 管理職養成学校の学びには、受講生を身近で見守り、支える人の存在が欠かせません。

2 法人内で受講生の学習や仕事との調整、精神面も含めて見守り、支えるサポート役(サポーター)をおいてください。

3 「法人の理念と歴史を学ぶ」、「財務諸表を知る」、「中長期事業計画を作る」などの課題に取り組むときは積極的に受講生の力になってください。

4 入学から修了までを連続した在学期間として位置づけ、開校式と修了式には、受講生の成長とともに確認するため送り出し法人からも必ずご参加ください。

